

選手激励会

6月1日（火）・2日（水）には福島支部中学校体育大会が行われます。この大会に向けて各中学校では「選手激励（げきれい）会」あるいは「選手壮行（そうこう）会」が開催されます。これらの会は、選手として大会に出る生徒にとっては、晴れの舞台（ぶたい）となります。

私のことなので、だいぶ昔（むかし）のことになります。ソフトテニス部だった私が、初めて選手として大会に出たのは、福島支部中体連新人大会でした。顧問の先生から選手の発表があり、ユニフォームをいただいた私は、それはそれはうれしかったことを覚えています。1年生ながらも試合に出られるというだけで大満足（だいまんぞく）でした。さらにもっとがんばろうと思ったものです。

3年生になり、福島支部大会の選手発表とともにユニフォームをいただきました。すると、真新しいカッコいいユニフォームが目飛び込んできました。そのときは、「テニス部が強いから買ってもらえた」と勝手（かって）に思っていたものです。実際（じっさい）は、決められた予算（よさん）の中でローテーションが決まっており、たまたま私が3年生のときにテニス部の番がまわってきたということだと思います。

思い込みも、ときには有効（ゆうこう）に働くことがあり、とにかく新しいユニフォームになって張り切ったことは確かです。大会の会場であるテニスコートに行っても、ユニフォームが新しいと、それだけで誇（ほこ）らしい気持ちになれました。

1年生の秋からずっと選手として大会に出ていたあの頃の私は、選手になれなかった人の気持ちにまで思いを巡（めぐ）らせることはありませんでした。高校生となり、テニスを続けた私でしたが、1年生のうちには、さすがに団体戦の選手、いわゆるレギュラーにはなれませんでした。そのときに初めて、試合に出られない人の気持ちがわかったような気がします。

あの1年間の経験が、その後、部長となったときに生かされたように思います。主力選手として試合に出ても、レギュラーになれなかった人の気持ちを考えていたと思います。もし、高校に入って1年生のうちからレギュラーになっていたら、部長になってもうまくいかず、人間としても成長できなかったことでしょう。

大学に進んでも、ソフトテニス部の部長を務めました。そこでも高校での経験は生かされたと思います。部をまとめる立場の者として、チームのエースからレギュラーではないメンバーのことまで考えられるようになったと思います。

これらの経験が、中学校の教員となり、ソフトテニス部の顧問となった私を支（さ）えてくれたことも事実（じじつ）です。試合に出られない3年生がいると、その生徒のことを一番に考えていたように思います。

選手激励会にユニフォームを着て参加できた選手の皆さんは、もし、近くに試合に出られないメンバーがいれば、少しでも、その人の気持ちを考えられる人になってほしいと思います。

「壮行」とは、「その前途（ぜんと）を祝（しゅく）し励ますこと」です。では、「激励」とは、「励（はげ）まして、奮（ふる）い立たせること」です。激励のほうが意味が強いように思います。野田中学校は、選手の皆さんを激励します。皆さんの健闘（けんとう）を祈（いの）ります。